

製品名: PPP1R1A ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe83831**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ICC,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.55mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:50-1:200,ICC 1:50-1:200,FC 1:20-1:100,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 19 kDa ; Observed MW: 27 kDa

抗原情報

遺伝子名	PPP1R1A
別名	I 1; I1; Inhibitor 1; IPP1; Ppp1r1a; Protein phosphatase 1 regulatory (inhibitor) subunit 1A;;PPP1R1A
遺伝子 ID	
SwissProt ID	Q13522
免疫原	ヒト PPP1R1A 由来の合成ペプチド

背景

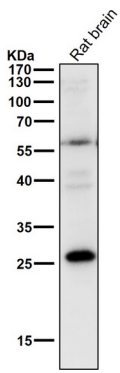
他のタンパク質のリン酸化を制御する役割を果たし、それ自体は環状 AMP 依存性タンパク質キナーゼによってトレオニン 35 でリン酸化されます。さらに、プロリン標的キナーゼ Cdk1、Cdk5、およびミトゲン活性化タンパク質キナーゼ (MAPK) は、系統的に保存された位置であるセリン 67 で IPP-1 の in vitro リン酸化を媒介します。

研究分野

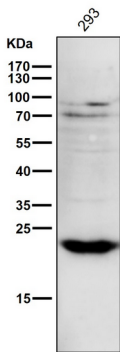
-

画像データ

すべてのレーンでは、抗体を 1:1K に希釈して室温で 1 時間使用します。



すべてのレーンでは、抗体を 1:1K に希釈して室温で 1 時間使用します。



ラット脳溶解物中の PPP1R1A 発現のウェスタンブロット分析。

